

# 使いすぎ警告!



## 電力使用「監視」広がる

電力使用状況を常時監視するシステムの導入が県内の事業所で進みつつある。電気使用量が目標値を超えそうになると警告が鳴るなどの装置を設置。電力会社との契約電力を引き下げて電気料金を削減できるメリットに加え、節電による二酸化炭素(CO<sub>2</sub>)削減も図れることから、環境対策として支持を集め始めたようだ。(荻原恵美子)

### ■ 県内事業所 ■

## 料金、CO<sub>2</sub>排出削減を期待

大型設備がフル稼働する漬物製造のアキモ(宇都宮市)。電気料金は毎年4千万円近く

導入に伴い、計573キロワットだった契約電力を100キロワット削減。使用量がリアルタイムでディスプレイに表示され、警報が鳴るとモーターの稼働を一時的に減らすなどの対応に当たった。

岡崎孝征(たかひら)専務は「今までロス(無駄)を減らした

来客用窓口にもディスプレイを設置。環境問題に取り組む姿勢をアピールする手段にもなっている。29日午前、宇都宮市石井町のアキモ

だったが、本年度は3千万円程度に抑えられる見通しだ。2008年11月に導入した監視システムの効果が表れ始めたという。

監視システムの開発を手がけるアンシブル(宇都宮市)の志水清子社長は「電気は最大のCO<sub>2</sub>排出要因。事業

所にとって節電は環境対策に取り組む姿勢をアピールすることにもなる」と説明。初期投資費用は数十万〜100万円程度だが、電気料金削減効果で1年以内に回収できるケースがほとんどという。関東電気保安協会栃木事業本部は本年度から、電気料金とCO<sub>2</sub>の削減策として同様のシステムの提案に力を入れている。本年度(昨年11月末)の導入は官公庁、サービス業者など120件を超え、前年度(08年7月以降)

比約5倍の実績だ。同事業本部が保守管理を手がける事業所は約6300件。システム

導入企業はまだまだ一部だが、「省エネ対策の助言を求める事業所は増えている」として、今後の普及に期待を寄せている。

エコワイズは昨年度、県立の学校、10校へ導入されました。

電力契約40KWから、247KWのそれぞれの学校で、10KWから30KWの削減に成功しています。この中で、40KW契約の特別支援校においても10KW削減できたことは注目に値します。

職員室で電気の消費量がリアルに判るので、これまでのように、いつピークが出るかビクビクすることが無くなった、と感想を寄せてくれました。みんなに見えるようになれば必ず削減できると、確信の持てる事例になりました。

この記事で紹介されている(株)アキモ、のほかに(株)スズテック、(株)タイコーデバイスにおいても2次側計測をサポートするエコワイズの効果によって300万円〜500万円/年の電気料金削減を達成しています。